

事業報告

1. 営業の概況

(1) 営業の経過及び成果

富山西インターチェンジは、供用開始以来10年が経過し、周辺地域からの高速道路へのアクセスや物流の効率化、文化・観光の振興、広域医療の推進など地域の発展に大きく寄与しているところであります。

平成20年7月には、連結する東海北陸自動車道が全線開通されたことから、より一層の利便性の向上が図られているところであります。

こうした中、インターチェンジ周辺開発事業である企業団地への入居につきましては、第1期事業の金屋企業団地には、29社が、第2期事業の呉羽南部企業団地には、17社が入居しております。

残りの分譲地は、金屋で1区画、呉羽南部で2区画であり、入居率100%に向けて鋭意誘致活動が行われているところであります。

なお、当期分のインターチェンジ建設負担金預り金につきましては、金屋、呉羽南部の合計で74,677千円となっており、(独)日本高速道路保有・債務返済機構(略称：高速道路機構)へのNTT資金償還金に充当しております。

(2) 対処すべき課題

平成33年度までに償還予定のNTT資金の残額は、当期末で586,684千円となっており、償還金の財源である建設負担金預り金の確保のため、企業誘致の促進につきまして、今後とも富山市及び関係団体と協力しながら一層努力してまいります。

(3) 企業団地への入居におけるインターチェンジ建設負担金預り金の状況

	第16期まで	第17期	第18期	計
一括分譲	592,151千円	47,799千円	0千円	639,950千円
割賦分譲	11,314千円	1,732千円	2,478千円	15,524千円
借地	251,468千円	66,150千円	72,199千円	389,817千円
計	854,933千円	115,681千円	74,677千円	1,045,291千円